



東町小が一つになった瞬間  
～学芸会を終えて～

校長 羽田野庸史

師走を迎え、寒さもひとしお身にしみる頃となりました。それでも、子供たちは、休み時間になると、校庭で元気いっぱい思い思いに遊んでいます。

さて、11月17日(金)・18日(土)に行われた学芸会には、お忙しい中、たくさんのご来賓、保護者の皆様にご参観いただきました。ありがとうございました。今回の参観者数(児童を除く)は1000名を超え、運営については、様々な面でご協力をいただきました。会場に入るのは、出演学年とプログラムの次の学年だけという入場制限を行い、プログラムが終わると退出していただく入替制など、いくつかの制約にご協力いただきました。また、会場の出入口は1ヶ所ずつしかなく、出入りに時間がかかるため、終了時刻が懸念されました。それでも、ほぼ予定通り進行することができたのは、保護者の方のご協力があったからこそでした。あらためて感謝申し上げます。

今回の学芸会は、3つの目標を掲げ、その中の一つに「力を合わせて一つのを創り上げる」を示しました。実は、ハプニングがあった学年もありました。それでも、子供たちだけでそのハプニングを乗り越え、見ている人にそのハプニングを感じさせませんでした。また、中学年では、台詞がない場面も演技を工夫し、ダンスは指先まで神経を集中し、よりよい劇を創り上げようとしていました。高学年では、劇そのものだけでなく、照明、効果音までも自分たちの力でやり遂げました。どの学年もまさに子供たち一人一人が力を合わせて一つのを創り上げようとしていました。そして、それは、6年生の劇のクライマックスシーンに集約されました。魔女たちが「魔女の生きる道」を、村人たちが「心から心へ」を歌い、お互いに争うシーンです。魔女たちの歌が優勢になり、村人たちが会場に歌の応援を求めました。この場面で、1年生から5年生までが一生懸命に「心から心へ」を歌い、その歌声で魔女たちを退散に追い込むことができました。まさに東町小の子供たち全員が力を合わせて学芸会を創り上げた、東町小が一つになった瞬間でした。このように児童一人一人が自分の役割を一生懸命に果たし、みんなで劇創りに取り組むことで、感動を共有することができました。

今年も残りわずか、来年は節目の平成30年でもあります。年末年始は、ぜひご家族でゆっくりとまとまった時間をお過ごしください。よいお年を。

2年生「真っ白だったカラスたち」において、一部色について誤った印象を持たせかねない部分があったことをお詫びいたします。

12月 行事予定

日	曜	行事等	放課後遊び
1	金	体育朝会 安全指導	2～6
2	土	日本文化の時間	なし
3	日		
4	月	子どもサミット 委員会活動 人権週間始	4～6
5	火	避難訓練	3～6
6	水	4時間授業	なし
7	木	児童集会(人権集会)	4～6
8	金	人権週間終了	2～6
9	土		
10	日		
11	月	クラブ活動 ユニセフ募金始(11/16【土】まで)	4～6
12	火	租税教室(6年)	3～6
13	水		なし
14	木	音楽朝会 地域清掃(1・6年)	4～6
15	金		2～6
16	土	日本文化の時間 PTA講演会	なし
17	日		
18	月		4～6
19	火		3～6
20	水		なし
21	木	体育朝会(1・2・3年)	4～6
22	金	体育朝会(4・5・6年) 給食終了	なし
23	土	天皇誕生日	
24	日		
25	月	終業式 大掃除	なし
26	火	冬季休業日始	
27	水		
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		

12月の生活目標

生活指導主幹 三根 博喜



学校をきれいにしよう

掃除は、人間の身体面と精神面に大きな影響を与えます。  
1gのほこりの中には約10万個の菌、約6万個のカビ、約1000匹のダニが存在します。掃除をせずに、ほこりだらけの中で生活することは、それだけ病気のリスクを高めていきます。

また、脳は、無意識に視覚から得た情報を処理しています。周囲が雑然とした状態は情報過多になり、脳の疲労による脳の働きの低下につながります。さらに、汚れていると脳に不快感を与え、ストレスになってしまいます。

身の周りをきれいにすることだけで、身体的にも精神的にも向上し、物事をポジティブに捉えることができるようになります。

毎日の掃除の大切さを改めて感じ、取り組みましょう。